

フードレスキュー ～廃棄される食材を救う～

金沢星稜大学 中尾公一研究室



動機

バイト先での大量廃棄
バイト先のコンビニなど：
例えば、1日でカゴ3杯以上



矛盾に
心が痛む

食料不足に苦しむ【子ども】



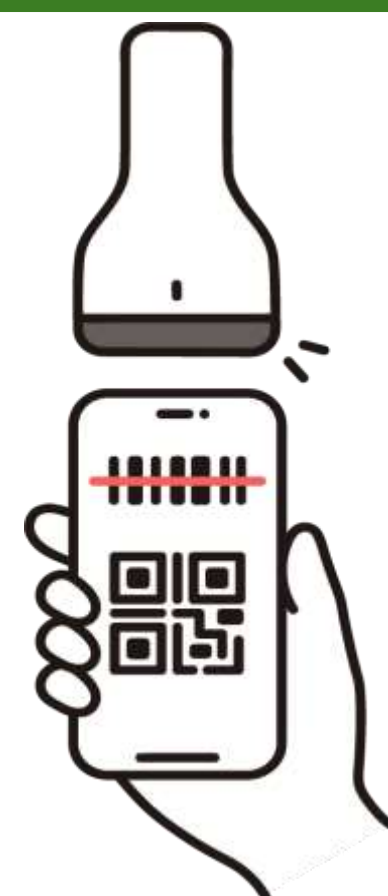
概要

石川県**初**の地産地消型
B to Bの食品取引アプリ
→地域事業者間の大量取引
⇒食品ロス **削減**



優位性

①地域内取引
配送日数・コスト↓
②簡単な在庫管理
提供者
バーコードスキャン



ターゲット

規格外の野菜等

在庫過多の商品

農家

食品
メーカー

B to Bアプリ

自社

①食品メーカー

②カフェ、居酒屋、
レストラン、

③子ども食堂



課題

収益化：利用者確保と規模の経済
商談会等参加→事業者と対話→信頼 **↑**



将来性

5年後：複数の地方都市

10年後：全国各都市

コミュニティ形成
仕組の共有・連携
フードロスの更なる削減

※このイラスト
はMicrosoftのAI
画像ジェネレー
ターを活用し、
作成しました。